

花いっぱい夢いっぱい

安佐南区花いっぱい運動

第4回

発行：安佐南区役所区政振興課（Tel.082-831-4926）

製作協力：花いっぱい運動スタッフ

発行年月：平成20年(2008年)9月

秋号

花づくり講習会を開催しました！！

昨年の秋、ボランティア花壇の世話人を対象として『花づくり講習会（現場見学会）』を開催し、58名の方に参加いただき活気のある見学会となりました。

北広島町八幡高原・高原の自然館の学芸員である白川勝信氏にお願いして、八幡高原内の案内と活動されている八幡湿原自然再生事業の説明をしていただきました。

【見学会日程】

日時：平成19年11月7日（水）8:30～16:30

行程：安佐南区役所発

北広島町八幡高原・高原の自然館

八幡高原の自然散策

八幡湿原自然再生事業の現地説明

安佐南区役所着

秋の見学会
高原の自然館



秋の散策会
八幡高原散策



今年春には、ボランティア花壇の世話人を対象として「春の花づくり講習会」を開催し、75名の方に参加していただき、大変盛況な講習会となりました。

講師には、ボランティアスタッフとして日頃から活動をしていただいている森川氏、益田氏、そして毘沙門台町内会で菊づくりを嗜んでおられる山成氏にお願いし、花壇づくりを楽しく続けるためのノウハウなどを教えていただきました。

【講習会日程】

日時：平成20年5月29日（木）10:00～12:00

場所：安佐南区役所4階講堂

講習：『腐葉土の作り方』

『花についての講習』

・寄せ植えの実演

・菊づくりの講習

春の講習会
益田氏の講習



春の講習会
山成氏の講習



講習会後のアンケートでの質問あれこれ

春の講習会后、皆様から頂きました花作りのご質問について、回答をご紹介します。

Q1. 公園再生事業と花いっぱい運動の制度ごとの補助金について。

A: <公園再生事業>について

都市公園において、公園づくりに必要となる資材(花・樹木の苗、土壌改良材、セメント、ブロック、材木などの資材)を一つの活動ごとに10万円を限度として提供します。地域の合意を得る必要があります。

詳しくは、安佐南区役所農林建設部維持課(電話:831-4956)にお問い合わせください。

<花いっぱい運動>について

花壇づくりに必要となる初期資材(草花の苗、土壌改良材)を提供します。花壇設置場所は公園に限らず、集会所など人目に付きやすく、設置許可(承諾)がもらえる場所であれば活動可能です。

Q2. 腐葉土を作るのに、紅唐まんさくの葉でも良いでしょうか？

A: 問い合わせの葉は、落葉広葉樹だと思われます。針葉樹だと腐葉土には不向きですが、落葉広葉樹は適していますので、常緑広葉樹と共に立派な腐葉土となります。

Q3. ラン等の植え替えについて。

A: <一般的なシンビジウムとデンドロビウムに共通する植え替えのポイント>

植え替え・株分けは、葉桜の頃(4月に入って)になってから行います。(加温施設のない家庭での目安です。)小さめの鉢を用意し、春の新芽を傷めないように気を付けながら、シンビジウムは専用の用土で、デンドロビウムはミズゴケでぎゅうぎゅう詰めにします。植え替え後10日間は日陰に置いたまま水を与えないで、その後は梅雨明けまで置き肥をして太陽の光と風と雨に当てます。

真夏は半日陰に移し、秋になったらまた日なたに置きます。10月中旬から1か月間は水を与えず、11月下旬頃に水を与えると同時に室内の明るい場所に移し変えます。その後、週1回の水やりで花上りを待ちます。花が見えてきたら置き場所はあまり変えないでください。最低温度は5℃くらいが必要です。花を観賞したら早めに花を切り取ります。以上が大まかな年間管理のポイントです。

この質問の回答は、広島市植物公園にお願いしました。

広島市植物公園では、植物に関する詳しい園芸相談を行っています。(電話:922-3600)

(9:00～16:30 休館日(金曜日)を除く)

Q4. 寄せ植えやプランターの土の配分をもっと教えてほしい。

A1: 基本的な用土の作り方

コンテナガーデンは、限られたスペースの中で育てるので、土には気を配ることが大切です。

次のことに留意して、特徴のある何種類かの土を混ぜて使います。

・通気性がよく、病虫等の無い清潔な土であること。

・置く場所を移動することも考えて軽いことも必要です。

(配合例)

・草花の場合・・・赤玉:5、ピートモス:3または腐葉土:3、バーミキュライト:2

・花木の場合・・・赤玉:7、ピートモス:3

底土は軽量化と排水を考えて大粒なものを uses。

A2: 古土を再利用する場合の用土の作り方

コンテナから取り出した古い土は、ふるいにかけて、古い根や枯れ葉、ゴミなどを取り除きます。

ふるいにかけて古土を、日光と空気にさらし消毒します。

上記の古土1リッターあたりに、苦土石灰:5～7g、ピートモスまたは腐葉土:20～30%、

新しい土(市販の培養土):30%を混ぜて使用するとよいです。